

## 2019年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

### 交流及び共同学習における取組例

### 県立但馬農業高等学校

#### 単元名

特別活動 本校での交流……生徒は公欠扱い  
特別支援学校での交流……生徒は課外活動で参加

#### 指導目標

- 1 特別支援学校の生徒とのふれ合いを通じて、豊かな人間性を育む。
- 2 交流及び共同学習を通じて、農業教科等のねらいの達成を目的とする。
- 3 社会を構成する様々な人々と共に助け合い支え合って生きていくことを学ぶ。

#### 事前学習

交流及び共同学習に生徒たちがスムーズに参加できるよう、両校で打合せをした学習活動に沿って、それぞれに事前学習をした。また、安全面を最大限に重視するために相手校を下見してコースを確認し、その情報を生徒に知らせた。

#### 学習活動（具体的な取組）

- 1 10月30日  
出石特別支援学校高等部2年生が本校にて農業体験実習
- 2 11月10日  
出石特別支援学校の生徒代表が本校の文化祭に参加して製作作品の展示・販売
- 3 11月29日  
出石特別支援学校農園班の生徒が本校にて農産加工実習
- 4 12月17日  
本校生徒が出石特別支援学校で果樹加工実習
- 5 1月18日  
本校生徒が出石特別支援学校の販売会にて販売交流

#### 支援と留意点

但馬牛のブラッシング、引き運動を行った交流会では、今年も牛を怖がる特別支援学校の生徒が多かったが、本校生が優しく誘導をし、ほぼ全員が牛に触れることができた。また、ブラッシングの際、直接素手で牛に触るよう促した。牛に素手で触れた生徒は、毛のやわらかさ、体温等を体感し、大きな感動が得られた。

さらに、引き運動では、畜産科の生徒が補助に入り、引き運動距離を短くするなど工夫をして、参加生徒のほぼ全員が、実際にロープを持ち体験を行うことができた。

#### 評価

出石特別支援学校との交流は30年近く続いており、本校の生徒は人間的な感動・感銘を得ることができ、本校生にとっても教育効果は大きい。この事業は、特別支援学校の生徒に本校生が教えることが多いが、今後は特別支援学校の生徒が得意とする分野、例えば「さおり織り」や「木工加工」などを高校生に教えるような交流が増えることが理想である。

出石特別支援学校とは、今後も長く交流を続けていきたい。そのために、綿密に打ち合わせを行い実施することが大切である。

#### 活動の様子



本校で栽培している草花を使用して、花壇を共同で製作



本校で栽培しているミカンを使用して、ミカンゼリーに共同で加工

#### 事後学習

交流及び共同学習を実施した後、活動してみてどう感じたか、よかったことを中心に振り返りをする中で、今後どのような活動をしていきたいかなどについて話し合ったことで、交流及び共同学習について理解を深める機会になった。

#### 成果と課題

交流に参加した生徒は、最後は笑顔になり、また参加したいと言っていた。特に大きな効果を求めなくても、交流そのものが生徒の意識に変化をもたらせている。

家畜（但馬牛）に触れることは教育的効果が大きいと欠かさず行っている。現在「豚コレラ」が問題となっており、防疫の関係で、部外者を家畜に近づけることは禁止しており、これが波及すれば、畜産での交流は中止せざるを得ない。